

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：平成 20 年度～23 年度

課題番号：20530292

研究課題名 (和文) 日中戦争期・内戦期における中国江南農村社会経済の実態と変化に関する研究

研究課題名 (英文) A Study on the Rural Society of Jiangnan (江南) in the period of the Japan-China War and Civil War

研究代表者 夏井 春喜 (NATSUI HARUKI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：80155978

研究分野：中国近現代史

科研費の分科・細目：経済史、3607

キーワード：経済史、中国江南農村社会、租佃関係、戦時体制

## 1. 研究計画の概要

1) 本研究計画は、1937 年から 1949 年までの日中戦争期・内戦期という「戦時期」における、中国江南地域、具体的には蘇州を中心とする地域の地主-小作関係を中心とする農村社会経済の実態と変化を考察することを目的としている。

(2) この目的を達成するため資料として、①近年新にマイクロ公開された江南地方の新聞資料、②中国・台湾等に収蔵されている中央及び地方の文書資料、③日本・中国の諸機関が実施した実態調査資料の 3 つを主に使用して、マクロな視点で分析する。

(3) この時期の研究成果が、1950 年代初期に実施された土地改革及び現在の中国農村経済問題の理解に繋がると思われる。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 資料の調査・収集では、①マイクロフィルムについては、日中戦争期・内戦期の蘇州・常熟・無錫・太倉等で発行された地方新聞、『清郷旬報』等の清郷工作関係雑誌、汪兆銘政権『江蘇省公報』等を購入した。②中央・地方の文書資料については、平成 20 年度台湾国史館・近代史研究所檔案

館、22 年度は蘇州博物館・呉江市檔案館・常熟市檔案館・江蘇省檔案館を訪問し、一部資料について複写による収集を行った。

③実態調査資料は、国内の大学・研究機関に所蔵されている、主に日中戦争期の満鉄・興亜院華中連絡部・長江産業貿易開發会社等が行った調査資料の収集を行った。

(2) 収集した資料の分析については、多量に上る資料の読み込みを継続的に行っている。平成 20 年度は主として日中戦争前期の 1941 年清郷工作時期以前、21 年度は日中戦争後期、22 年度は内戦期の資料を中心に行っている。呉江市檔案館の簿冊資料を、新聞等の文献資料と対照して分析した論文を発表した。

(3) これらの資料の分析から、日中戦争時期・内戦時期を通じて、各県の状況がそれぞれ異なるが、地主の佃戸への支配力は大きく低下し、殆ど独自では収租できない状況に陥っていたこと、収租を行うためには公的権力に依存しなければならないが、中央・地方政府の軍糧調達、田賦実物徴収の財政政策、二五減租、自作農創出政策等農村社会政策等が絡みかなり複雑な状況を呈

していること、一部の地主から佃戸への土地売却の動きが現れること、などが知見として得られている。

### 3. 現在までの達成度

(2) おおむね順調に進行している。

資料の収集はほぼ予定通り進行している。マイクロ化された新聞資料については蘇州・常熟等の地方新聞は予定通り購入・閲覧を行っている。リストになかった『清郷旬報』等も中国国家図書館で閲覧できた。文書資料についても呉江市・常熟市の関連する資料を閲覧できた。実態調査資料については一部を除いて収集を完了できている。資料の分析についても、新聞資料と呉江市資料について分析を行っており、その成果の一部は論文として公表している。以上の点から、研究計画はおおむね順調に進行しているといえる。

### 4. 今後の研究の推進方策

これまで資料の収集は順調に行われており、平成23年度は本研究計画の最終年であり、これまで収集した資料の分析が中心となり、研究計画は当初の計画で実施する。ただ訪問調査でアメリカを予定していたが、文書資料が確認されている常熟市檔案館を再度訪問して、特に内戦期の資料を閲覧・収集する変更を行いたい。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 夏井春喜、日中戦争期呉江県の土地関係簿冊について、北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)、第61巻1号、55～70頁。2010年、無。

[学会発表] (計 1 件)

- ① 夏井春喜、從資料看戦争与近代江南的地主制度、中央研究院近代史研究所學術討論会、2008年10月8日、中央研究院近